

春の里山 Walk 箕谷-淡河-吉川-東条-相野-立杭 2008.4.16.

日本6古窯のひとつ 陶器の里 丹波 篠山市立杭へ

家から ミニバイクで北の箕谷へでて、国道 428 号で丹生山をこえて、淡河・吉川にでると 約1時間ちょっとで立杭。

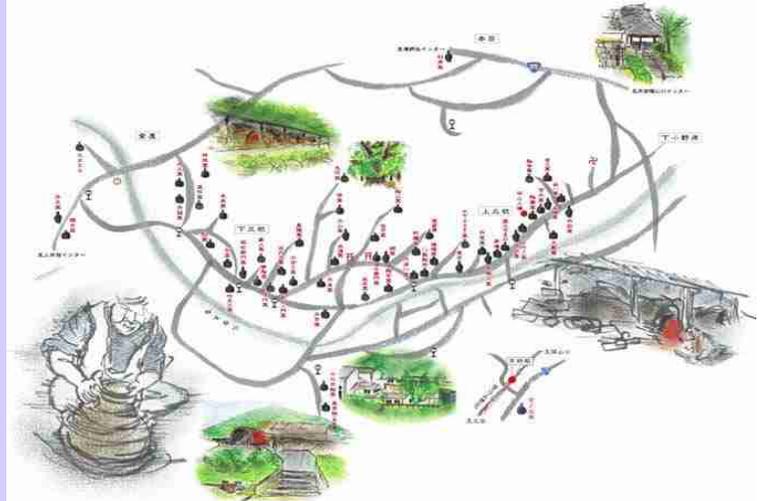
神戸の里山を満喫できる気持ちのいい道

立杭の県立陶芸美術館で「縄文」の展覧会を見るため、久しぶりに立杭まで行きました。

新緑の里山をぬけて 日本6古窯の一つ 陶芸の郷 立杭へ 2008.4.16.



立杭へ行くのは久しぶり。日本6古窯 緑の山々に囲まれ、今も登り窯が主流の陶芸の郷
立杭の郷を歩いて窯や陶器を見るのもよし。博物館のテラスに座ってじっくりと立杭の自然の中にゆったりと身を置くのもよし。
また、今開いている「縄文の展覧会」ももう少し、会期があるようです。
そんな 神戸近郊の里山の芽吹きから新緑への移り変わりも……。
のんびりと出かけのお勧めコースです。(電車だとJR 福知山線で 三田よりももう少し 篠山寄りの相野駅より バス有)





一拳に芽吹き始めた春の里山 稚児墓山と帝釈山の鞍部を越えてゆく国道 482 号 箕谷／淡河の間で 2008.4.16.



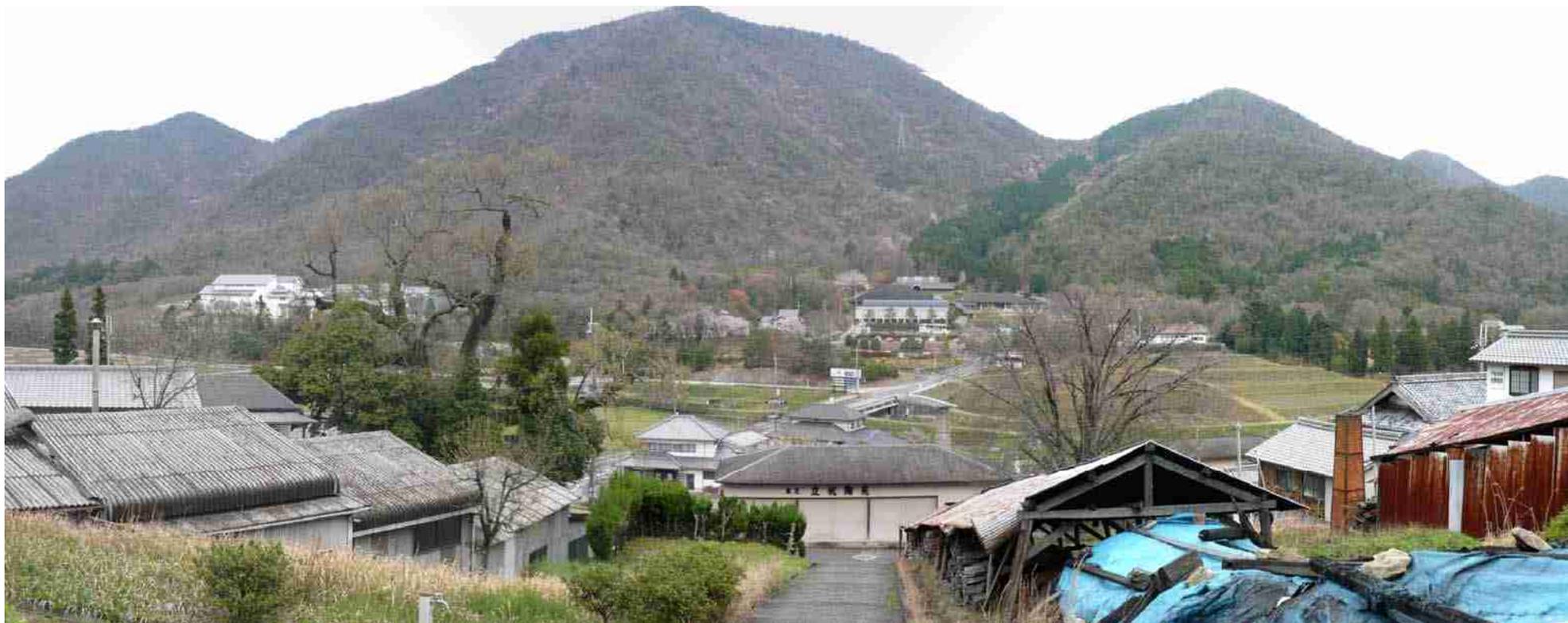
春の里山 新緑の森を演出するつつじのピンク

2008.4.16.



レンゲ畑が広がる淡河の田圃郷

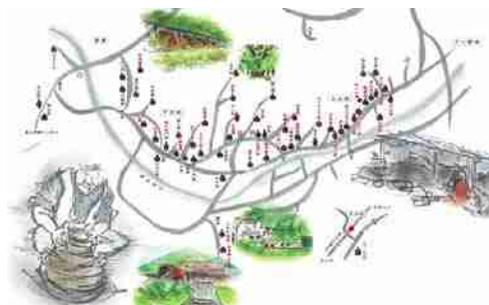
2008.4.16.



日本六古窯 今も多くの登り窯が残る丹波焼の郷「立杭」 2008.4.16.



日本6古窯
窯元が並ぶ立杭の郷



県指定文化財

丹波立杭登窯



指定年月日 昭和48年3月9日

所有者・管理者

市野正雄、市野晃司、大上 亨、清水郁夫、田中義治、上立杭区

本窯は現在使用中の共同窯である。山の勾配を利用して東西47メートルにわたって長く築かれ、9袋をもつ登窯である。記録によれば、明治28年の構築で、立杭において現存する最も古いもののひとつである。工芸品、雑器を主として焼成している。

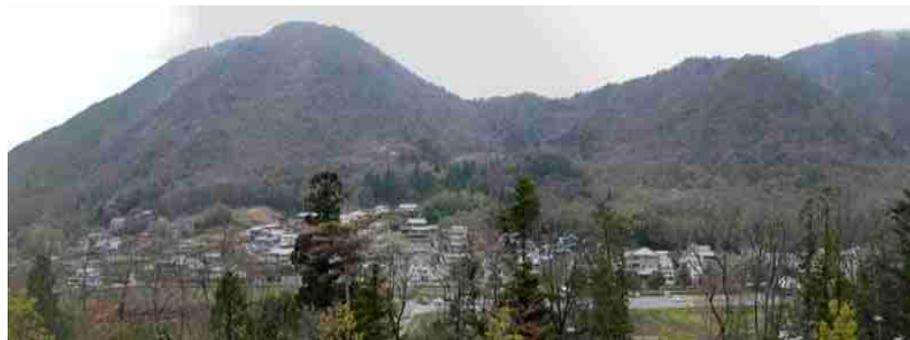
現在ではヒドコロをバーナーに、ヒサキ(俗にハチノスという)を煙突にした立杭窯が多い中であって、本窯はよく古様を保っている典型的な登窯である。

なお、丹波立杭窯の製作技術は昭和32年に国の記録作成等の措置を講ずべきものとして選択されている。

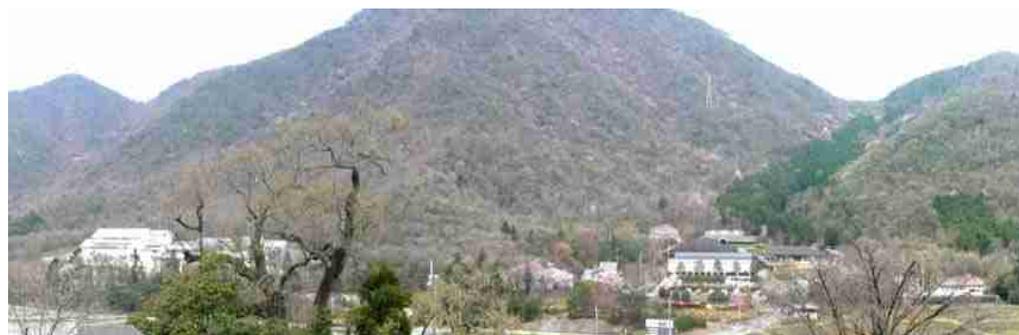
平成4年11月

兵庫県教育委員会

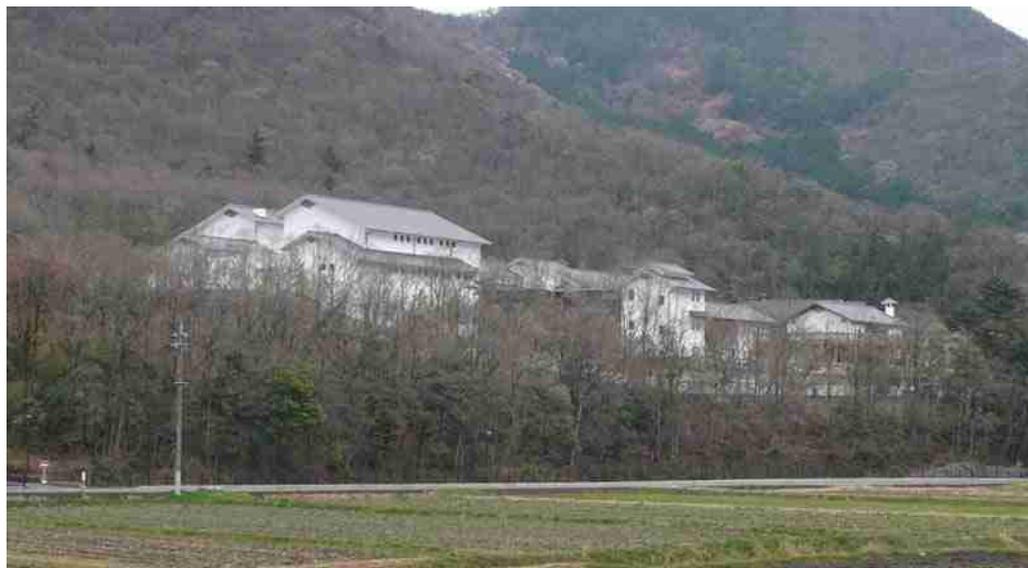




兵庫陶芸美術館からの立杭の郷

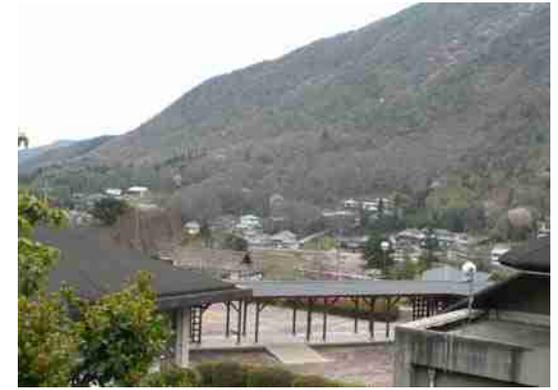
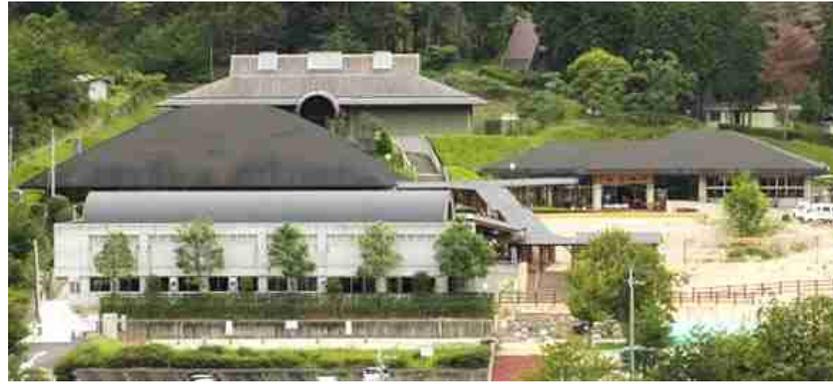


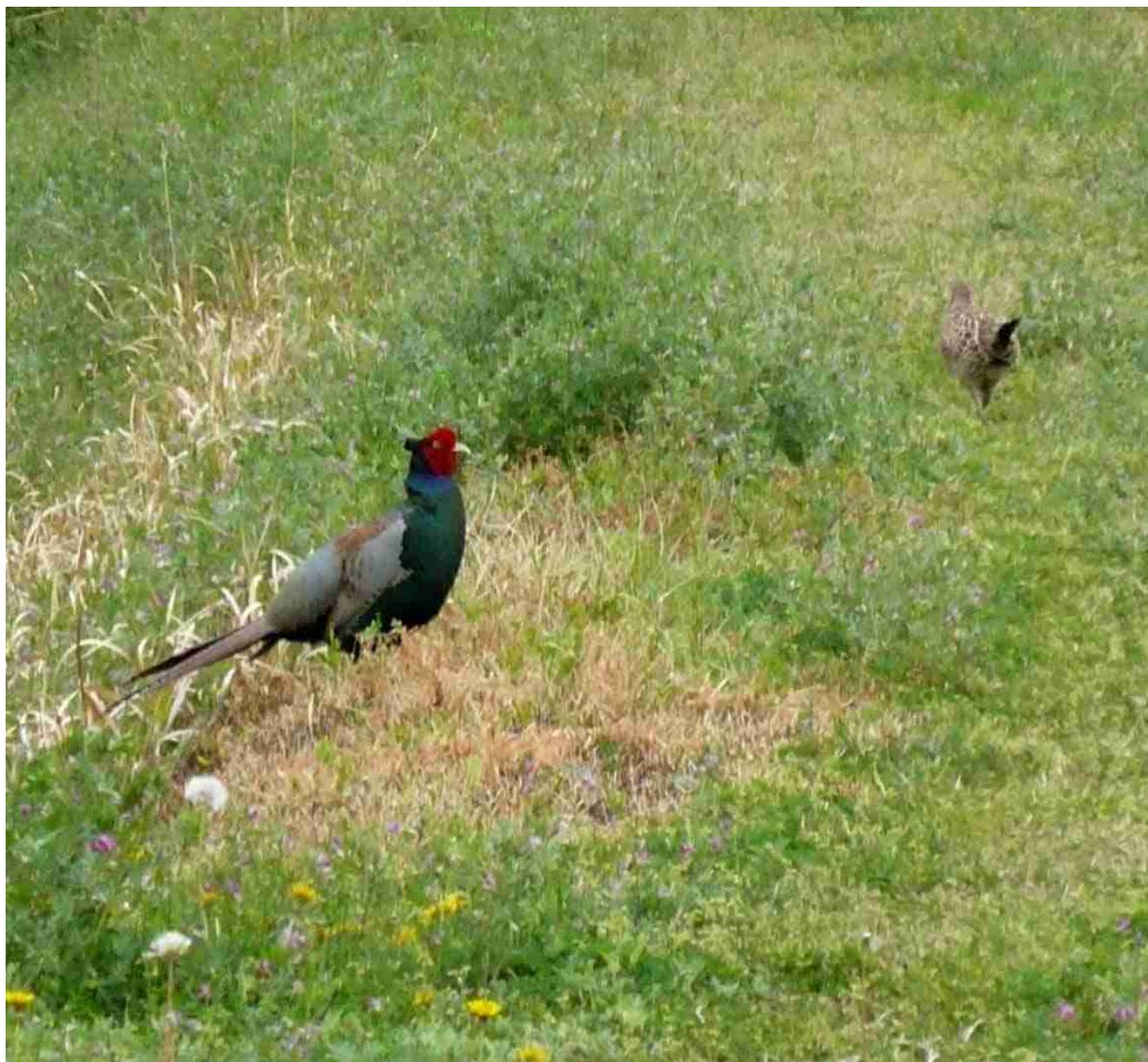
兵庫陶芸美術館から見た 左: 立杭の郷 右: 陶の郷



正面に日本6古窯 立杭を眺められる 兵庫陶芸美術館

篠山市今田町立杭 2008.4.6.





ゴルフ場の森が点在する東条 大川瀬ダム近くの里山の田園で遊ぶ雉の夫婦を見つけ、しばし見とれました。
また、近くの森でも別に2羽 森の中に飛び込みました。こんなに一度に野生の雉を見たのは初めて ラッキーでした
2008. 4. 16. 東条湖から吉川へ帰る里山の中で